

### 誰が星の王子さまを殺したのか

安富 歩著



本書は「星の王子さま」の謎を鮮やかに解き明かす。第2次世界大戦中、サンテジシユベリがナチスから逃れて米国に亡命し、アフリカへ志願出征する直前に発表された「星の王子さま」は、政治的な意味も含め、さまざまな解釈を生んできた。しかし、謎めいた登場人物はなかなかその「真のメッセージ」を明らかにしてくれない。

本書ではこれまで繰り返されてきた解釈を覆すような議論を展開する。小さな手がかりを糸口に切り込んでゆくその手法は見事というほかない。

副題にもある「モラル・ハラスメント」とは、一見無害なコミュニケーションを装って人の心を支配し、かつその苦しみは自身のせいでと誤信させる精神的暴力。それは夫婦や恋人、親子、友人関係、また会社や国家と個人の間にあつて、人間の魂を奪う。ハ

### 死に至る謎、鮮やかに解く

明石書店 2160円

ラスメントにとらわれたとき、人間は自らの魂の主人であることをやめてしまふ。そしてそのさまよいを「自由」である取り違える。王子の苦悩は「ここにあらんと本書は言う。

秀逸なのは「詞いならず」という言葉に込められたトリックを明らかにした点である。気難しいパラに振り回される王子。本来はハラが王子の心を支配し、詞いならしたにちかかわらず、キネネは王子がハラを飼ひなうとした「詞いならした」ののに対して責任がある。「王子を追いつめる。

次に「ロワバミ」にまたれたソウの絵、手をかりに、王子を死に追いやつたラスメントの悪意が隠蔽されていることを指摘する。そして、作中で重要な役割を果たすハオバの木の新たな解釈が示される。このため、本書は意外な一貫性をもって結論を導き出す。

王子はなぜ自分の星を去らねばならなかつたのか。自由に旅をしているはずの王子はなぜ、そこに自らをかせて倒れたのか。その謎を解く旅を、夜空の深い色と星に彩られたこの美しい本とともに味わってほしい。それはわれわれ自身の心とつれを解く旅でもある。

(深尾葉子・大阪大准教授)

### 救命医が語る死生観

おかげさまで生きる (矢作直樹著)



幻冬舎 1080円

交通事故や殺傷事件、自殺、脳卒中、心筋梗塞……。死のふちに立つ重恩を迎え、分け隔てなく全力で対応する。なのに、救える命と帰らぬ命があるのはなぜか。救命現場で格闘する著者が、自らの非力と医療の限界に直面する中で到達したのは、人は一人の「見ええないもの」を超えた「心」によって生かされておき、生死の境は「神」の領域に属する、との世界観だった。

魂の不滅を説き、来世の存在を説く「スピリチュアル本」は山ほどある。「おかげさまで」を支えられたが、科学の最先端で無数の死に向き合う体験に裏感謝し、苦業を学びに変打ちされた言葉は重みがえり、自力で今を生きていく。東大病院の現役医師による平易なエッセイ集という目新しさも手伝い、発売後3カ月で発行部数25万部の大ヒット。版元かけた自身の経験も踏まには「心が安らぐ気持ち」があった。なご反響が相次ぎ、担当編集者は「理想

家族や友人とも必ず再会できる」とも。被災地の人々や自殺遺児、さびには人生に疲れた、失意の底でうつまる全ての人々に届けたい一冊。

(意)

### プロット・アゲンスト・アメリカ

柴田



その前提を成すのが、史実では1933年から45年までの12年間、建国以来最長の任期を務めた第32代大統領フランクリン・デラノ・ローズヴェルト大統領が、仮に4選せず対抗勢力に惨敗していったらという思考実験である。

ローズヴェルト大統領は大恐慌にあえぐ30年代アメリカをニューディール政策により救い出し、第2次世界大戦勝利をお膳立てして絶大な支持を得た大統領だが、2004年に原書が刊行された本書では、彼は1940年、3選を懸けた選挙のさいに、ナチスドイツと親しくユダヤ主義思想を持つ有能飛行家チャールズ・リンデンバークに敗北を喫してしまう。

その結果、アメリカは連合国側

集英社 2376円

思考実験で描く一族の傷

北の村と南の島は鮮やかに好対照で、合わせ技一本というところでしょう。

収束せず、歴史に目を向ける。北の村と南の島は鮮やかに好対照で、合わせ技一本というところでしょう。

中心となるのは作家の自伝的背景とも無縁ではないユダヤ系一家。何しろ語り手自身が名をフィリップ・ロスという。40年6月の時点で7歳の彼やその兄サンディ、いとこのアルヴァンたちが、リンデンバーク大統領誕生以降の2年間でいかに人生の傷を負っていかかを、本書は生き生きとしたリアルで描き出す。特に飛行家として人気絶頂だったリンデンバークの愛国誇揚事件に驚くべき真相があつたとする仮説、やがてリンデンバーク自身が誘拐される展開は、手に汗握る。

ヒトラー打倒の野心に燃えて従軍したアルヴァンが片脚を失い帰国して以降の変節は惨憺たるものだが、しかしその精神的外傷についても物語は終盤、あまりにも美しいクラマックスを仕掛けていく傑作。

(巽孝之・慶応大教授)

講談社 1404円

や歴史の本、事典で探し求めた情報を小まめにファイ

### 歴史・時代小説

### 「太閤の能楽師」ほか



### 静かだが圧倒的なス

武田信玄の娘は、織田信長の忠と婚約したが、決別で破談となる。耕一郎・松尾は「角川春樹事務所288家」は、松尾武田家の滅亡を語る。高遠城で暮らすが、織田軍に追

### ミッドウインター

定していた中高年だけでなく若く読者も多い」と

### 本と私

私の場合、「宗教学」という学問を長く専門としてきたが、もともと「比較宗教学」と呼ばれていた。一つの宗教ばかりを研究するのではなく、複数の宗教を対象とし、それらを比較する必要があるというわけだ。

そういった学問上の性格からすれば、宗教学の研究からすれば、宗教学の研究は、日本の宗教を研究するからといって、神道や仏教だけを対象にしてはならず、キリスト教やイスラム教についても、それなりに勉強する必要があるのだ。

しかし、キリスト教はともかく、イスラム教になると、知識は限られている。身近に接していることがないので、なかなかそれについて学ぶことが難しい。だいたい、興味を抱くきっかけがあまりないのである。

その点で、井筒俊彦「イスラム文化」(波文庫)を読んだとき、衝撃は大きかった。なほ、イスラム教が、そういう宗教なのか、そ